

基礎研究部会の活動

基礎研究部会では「授業者の思いを反映した道德の授業づくり」をテーマに活動してきました。

疑似体験を取り入れた道德の授業（高学年）

主題名「かぎりなくやさしい花々」4-(2) 公正・公平

出典：星野富弘「かぎりなくやさしい花々」（偕成社）

<導入で>

星野さんが、初めて口に筆をくわえて書いた字を提示します。もちろん、口に筆をくわえて書いたことは、ないしょにしておきます。

<疑似体験で>

実際に行うことで、体験前と体験後の気持ちや考え方の違いに気付かせました。



映像資料を使った道德の授業（高学年）

主題名「挑戦 -田臥勇太-」1-(2) 希望・勇気・不とう不屈

出典：NHK「スポーツ大陸 夢をあきらめない」

<場面を区切って視聴>

- ① 田臥選手の華麗なプレー
 - ② 田臥選手の華々しいデビュー
 - ③ 45日で解雇
 - ④ 再挑戦するが、けがで断念
 - ⑤ 次の機会に向け、トレーニング
- 場面ごとに、一時停止して区切りながら、教師が補足説明や発問をして、子どもの考えを引き出しました。



授業参観で

子どもと保護者が共に考える道德の授業（6年）

主題名「すれちがい」2-(4) 寛容・謙虚

出典：明るい心6年（県教振）

<事前に>

授業の内容と参加していただく場を伝えておきます。

<中心場面で>

保護者には、子どもたちの考えを聞いてもらう場になりました。子どもたちにとっては、保護者からアドバイスをもらう場となりました。



保護者の考えから学ぶ道德の授業（6年）

主題名「いちばん高いねだんの絵」2-(3) 信頼・友情

出典：明るい心6年（県教振）

<事前に>

「わたしにとって友達とは」というテーマで、保護者には手紙を書いてもらいました。子どもたちは「心のノート」に書いておきます。

<友達について考える場面で>

保護者が手紙に書いた友達像と、自分が書いた友達像との違い比較し、保護者の考えを実際に尋ねさせました。



研究の詳細や成果と課題等は、1月27日の発表会で！



心のアンテナ

「^か噛めば^か噛むほど味が出る」

城西小学校長 安田 隆

酒の肴^{さかな}の話ではありません。「するめ」を食べるときと同じように、道德の授業もすればするほど、児童の物事の感じ方・考え方・見方が色々と分かってきて面白い、という意味です。皆さんが校内や校外で他の学級の道德の授業を見られたとき、児童の意外な考え方に「ははあ、なるほど」と感心したり、思わず吹き出したりすることがあると思います。

たった1時間の授業を参観しただけで、私たちは、児童の感じ方・考え方・見方に心を動かされるのですから、毎週毎週道德の授業を実践している担任にとっては、たまらない喜びです。「A児は善悪の判断がしっかりできるな。」「B児は友達の考え方に流されやすいな。」「C児の発言は日ごろの行動と全く違うな。」「D児は理由付けがしっかりしてきたな。」などと、児童の考え方を把握し、それを広げ、深める営みは、まさに担任^{みようり}冥利に尽きる仕事と言っても過言ではありません。

新学習指導要領では、「道德の時間」の役割を「^{かなめ}要」という表現を用いて、道德教育における中核的な役割や性格を明確にしています。簡単に言えば、「1週間に1度しかない道德の授業こそ最重要」という訴えなのです。

この訴えに応えるためにも、児童一人一人のうま味を引き出せる道德の授業を、「^か噛んで^か噛んで」いただきたいと思っています。



（実践上での疑問やお悩みは、本道德研究部員にお気軽にお尋ねください。）